

5.足袋産業(戦後)の発展と足袋蔵の建設

足袋から被服産業へ。戦後昭和 20 年代に再び活況を呈した行田の足袋産業は昭和 25 年に経済統制が解除されると、行田の足袋産業は息を吹き返し、再び足袋蔵が建てられるようになりました。その当時は材木が入手困難なこともあって石蔵が多く建てられました。支柱を持たずに大谷石を積み上げて壁を造り、その上に屋根を乗せているのが特徴です。新興の足袋商店も多数生まれ“足袋蔵”も再び建設されるようになりました。また大正時代に足袋産業から派生した被服産業も台頭し、倉庫を建設しています。戦後の木材不足から、この時期の足袋蔵は部分が大谷石造の蔵になりました。戦後は木材不足から石蔵が主流となり、昭和 30 年代前半まで足袋蔵の建設は続けられました。行田の足袋蔵が他の“蔵のまち”と違って多種多様であるのは、このように 100 年以上もの永きに渡って、新しい建築様式を取り入れながら足袋蔵が建てられ続けたからなのです。



昭和 29 年ナイロン靴下が発明されると、服装の洋装化とあいまって、翌年から足袋の需要は急速に落ち込んでゆきました。行田の足袋業界は被服、靴下、ハップサンダル、地下足袋など各種繊維産業へと転換していきました。服装の洋装化の進行によって、その後も足袋の需要は減少を続けましたが、近年若い人の間で「和装ブーム」が起こるなど足袋を見直す動きも起こり始めています。行田の足袋産業は生産拠点を海外に移す企業も多くなりましたが、現在でも約 30 の足袋関連企業が存在し、年間 141 万足、全国シェアの約 35%を生産する日本一の足袋産地であることには変わりはありません。昭和 29 年にナイロン靴下の量産が始まると、服装の洋風化の進行と相まって、足袋の需要は大きく落ち込んでしまいます。それと共に行田の足袋産業は急速に衰退し、昭和 32 年を最後に足袋蔵は造られなくなりました。足袋蔵は商品倉庫としての役割も終えて遊休化して行きました。その一方で、『十万石行田本店店舗』のように建物のもつ歴史的風格を商業活動に生かした店舗も現れ、昭和 50 年代には、足袋蔵の再活用が議論されるようになりました。



昭和戦後の足袋蔵エピソード①戦後の行田の足袋産業復活、足袋蔵の再到来。

昭和 25 年行田の足袋産業は息を吹き返し、再び足袋蔵が建てられるようになりました。その当時は材木が入手困難なこともあって石蔵が多く建てられました。支柱を持たずに大谷石を積み上げて壁を造り、その上に屋根を乗せているのが特徴です。新興の足袋商店も多数生まれ、「孝子蔵」、「小沼家」の石蔵“足袋蔵”も再び建設されるようになりました

■『孝子蔵』昭和 26 年(1951)の足袋蔵(石蔵)



大木末吉商店が昭和 26 年に敷地の一番奥に棟上げた足袋蔵です。大木商店は「孝子足袋」で有名です。昭和 25 年に経済統制が解除されると、行田の足袋産業は息を吹き返し、再び足袋蔵が建てられるようになりました。その当時は材木が入手困難なこともあ

って、こうした石蔵が多く建てられました。支柱を持たずに大谷石を積み上げて壁を造り、その上に屋根を乗せているのが特徴です。2 階の窓も大谷石の引き戸になっています。大木商店は間口が狭く奥が長い短冊形の敷地に、店蔵兼住宅、足袋工場、足袋倉庫が一行に並んでいます。これはかつての、城下町の商人町(行田町)に位置する足袋商店の典型的な建物配置です。

この石蔵は行田足袋産業の最後の輝きを伝える近代化遺産と言えるでしょう。また大正時代に足袋産業から派生した被服産業も台頭し、「舞原蔵」などの倉庫を建設しています。戦後の木材不足から、この時期の足袋蔵は部分が大谷石造の蔵になりました。戦後は木材不足から石蔵が主流となり、昭和 30 年代前半まで足袋蔵の建設は続けられました。



■行田のまちを彩る、モルタル蔵



行田の足袋蔵が他の“蔵のまち”と違って多種多様であるのは、このように 100 年以上もの永きに渡って、新しい建築様式を取り入れながら足袋蔵が建てられ続けたからなのです。「松坂屋蔵」倉庫(モルタル蔵)、

「栗原家モルタル蔵」も登場しています。

■足袋を売る。出来上がった足袋は、以前は袋に入れていたが、現在はビニール袋となっている。そして、行田の特徴ともいえる商標ペーパーを添付した。行田の足袋製造業者は、それぞれ自社のブランドを持ち、それを商標として登録していた。工夫をこらしたデザインによる商標を印刷し、販売に際しては製品とともに袋に入れたり、縫いつけたりして、自社の看板にしていた。1 者が複数の商標を持つ場合があり、その数は行田全体で 200 を超えるといわれる。

戦後昭和 <http://hifu-koworks.com/gyoda.tabinet.ver12/contents/012.pdf>

戦後棟上げ <http://hifu-koworks.com/gyoda.tabinet.ver12/contents/107.pdf>